

大会プログラム 3月15日(土)

【第1会場】(7号館小川講堂)

- 12:00~12:05 開会のあいさつ
- 12:05~12:35 大会長講演
臨床倫理と私 — やってみて初めてわかること —
演者: 高野誠一郎(第12回年次大会長)
座長: 野口 善令(豊田地域医療センター)
- 12:40~13:40 基調講演
バイオエシックスの50年と臨床倫理の未来
私とバイオエシックス — 91歳のパイオニアは語る —
演者: 木村 利人(早稲田大学名誉教授/第7期(2008~2010)日本生命倫理学会理事長)
座長: 箕岡 真子(箕岡医院/日本臨床倫理学会総務担当理事)
- 13:50~15:20 シンポジウム1
医療者が悩む Advance Care Planning — 各分野の専門家はこう考える —
座長: 明石 恵子(名古屋市立大学大学院)
- S1-1 腎不全患者の Advance Care Planning を考える
演者: 三浦 靖彦(岩手保健医療大学)
- S1-2 循環器疾患における ACP
演者: 荒木 絢子(医療法人溪仁会手稲溪仁会病院)
- S1-3 急性期病院医師の立場から考える脳卒中患者の ACP — 患者の人生価値観と医療者の病状判断 —
演者: 宮 史卓(伊勢赤十字病院)
- S1-4 認知症の人の意思決定支援に向けて — 実際の語りをとおして心情を知る —
演者: 一美奈緒子(熊本大学病院心理支援センター)
- 15:30~17:00 シンポジウム2
生体臓器移植にまつわる倫理的課題
座長: 田中信一郎(腎不全センター幸町記念病院)
- S2-1 生体肺移植にまつわる倫理的課題
演者: 中島 大輔(京都大学)
- S2-2 生体肝移植にまつわる倫理的課題
演者: 笠原 群生(国立成育医療センター)
- S2-3 生体腎移植にまつわる倫理的課題
演者: 杉谷 篤(同愛会・博愛病院)

【第2会場】(第3教育棟3階・301教室)

13:50~15:20 教育講演1

「食べること」にまつわる臨床倫理の視点

演者：金沢 英哲(Swallowish Clinic)

座長：藤島 一郎(浜松リハビリテーション病院特別顧問)

15:30~17:00 教育講演2

医療者に知ってほしい「やさしい日本語」 — 相手に合わせて分かりやすく伝える —

演者：武田 裕子(順天堂大学大学院)

座長：川崎志保理(順天堂大学／日本臨床倫理学会渉外担当理事)

【第3会場】(第3教育棟4階・401教室)

13:50~15:20 ワークショップ・倫理コンサルテーション A

DNARの説明・同意が適切にされているか

横浜労災病院 倫理コンサルテーションチーム

小泉 泰彦, 中山 貴博, 藤本 潤一, 周藤 高, 宇田 淳子,

行谷 貴美, 古都美智子, 大椋 裕美, 目黒 りう, 山野 惣平,

楠瀬まゆみ, 三上 容司

15:30~17:00 ワークショップ・倫理コンサルテーション B

南砺マルモカンファレンス

大浦 誠(南砺市民病院診療部), 野原 良子(南砺市民病院看護部), 吉田裕

美子(南砺市訪問看護ステーション), 吉澤 環(南砺市民病院看護部), 石田

瞳(追手門学院大学経営学部准教授), 簾藤 麻木(一級建築士事務所 nenlin),

清水 幸裕(南砺市民病院診療部)

【第4会場】(第3教育棟5階・501・502教室)

13:50~15:20 一般演題1 倫理教育

座長：高田 芳枝(栃木県立がんセンター)

01-1 倫理リンクナース2年目の意識変化

演者：吉垣留美子(公立豊岡病院組合立豊岡病院)

01-2 ナースコールの対応と看護師の倫理観の関係性について

演者：的場 由依(日本赤十字社和歌山医療センター)

01-3 固定少人数グループによる倫理研修 — 研修生の気づきと学び —

演者：花田 敦子(浜松医科大学医学部附属病院)

01-4 院内看護師対象の看護倫理コンサルテーション活動報告

演者：高橋美賀子(聖路加国際病院)

01-5 A病院職員の倫理に対する認識

演者：鈴木貴美子(一般財団法人京都地域医療学際研究所がくさい病院)

01-6 倫理的課題報告システム「モヤモヤ報告」の導入と現状

演者：高田 芳枝(栃木県立がんセンター)

15：30～17：00 一般演題3 倫理コンサルテーション1

座長：樋口 明子(国立国際医療研究センター病院)

03-1 臨床倫理評価シート作成と今後の課題

演者：村井 宏通(岡崎市民病院)

03-2 倫理的に悩ましい状況を話し合う方法：日本語版 CURA の開発

演者：蘆田 薫(関東学院大学)

03-3 日本版 MCD ジレンマメソッドによる臨床倫理事例検討ファシリテーター養成研修の開発

演者：里見絵理子(国立がん研究センター中央病院／順天堂大学大学院)

03-4 医療従事者の倫理的行動に関する質問紙の開発

演者：明石 恵子(名古屋市立大学)

03-5 Armstrong Clinical Ethics Coding System (ACECS) 日本語版の開発

演者：樋口 明子(国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院)

【第5会場】(第3教育棟6階・601・602教室)

13：50～15：20 一般演題2 急性期医療における医療・ケア1

座長：加藤 亙(日本赤十字愛知医療センター名古屋第二病院)

02-1 家族が治療撤退し自宅退院を希望された救急搬送事例

演者：上島 智子(札幌東徳洲会病院)

02-2 患者と家族の間で治療選択が異なるケースへの専門看護師の倫理調整

演者：辻 守栄(千葉県総合救急災害医療センター)

02-3 患者・家族の意思を支える医療・ケアチームにおける看護師の役割と課題 — がん終末期患者の鎮静に対する患者・家族の思いの相違に難渋した事例 —

演者：北木 弥生(済生会広島病院)

02-4 心肺停止蘇生後の遷延性意識障害患者に医療ケアチームで患者の最善の利益が得られる治療方針を検討した事例

演者：前澤 直人(札幌東徳洲会病院)

02-5 心停止後の臓器提供を見据えた治療の差し控えに関する倫理的課題

演者：長尾 大地(日本赤十字愛知医療センター名古屋第二病院)

02-6 脳死下臓器提供ドナーに対する尊厳保持のケア：システムティックレビュー

演者：澤田 美和(名古屋市立大学)

- 15：30～17：00 一般演題 4 急性期医療における医療・ケア 2
- 座長：日向 園恵(石巻赤十字病院)
- 04-1 COVID-19 病棟看護師が経験したジレンマにおける倫理的悩みの程度による比較検討
演者：金子 悦子(福井赤十字病院)
- 04-2 A病院における身体拘束最小化チームの取り組み ― 老人看護専門看護師の視点から ―
演者：管野 心葉(国際医療福祉大学病院)
- 04-3 急性期病院での「院内デイケア」開設に向けた取り組み ― 入院中の高齢者の QOL の維持・向上, 身体拘束最小化を目指して ―
演者：岩本 友香(東京都立病院機構東京都立東部地域病院)
- 04-4 倫理カンファレンスにより身体的拘束を解除した事例
演者：佐藤 晶子(聖隷三方原病院)
- 04-5 過活動せん妄患者の自立心を尊重した看護実践の一事例
演者：能登 美月(千葉県総合救急災害医療センター)
- 04-6 急性期一般病棟の看護師が抱えている倫理的ジレンマ ― 現状を知り解消に向けた取り組みへのヒント ―
演者：梶音麻紀子(戸塚共立第1病院)

大会プログラム 3月16日(日)

【第1会場】(7号館小川講堂)

9:00~10:30 シンポジウム3

終末期在宅ケアにおける倫理的ジレンマに向き合う

座長：西田 伸一(医療法人社団梟社会西田医院)

S3-1 在宅での神経難病における倫理的課題について

演者：渡邊 明子(市立福知山病院)

S3-2 限られた時間の中で最善を尽くす — 終末期ケアにおける倫理的ジレンマと自己肯定感 —

演者：牧 美幸(臼杵市医師会立コスモス病院)

S3-3 在宅医療ケアにおける臨床倫理の普及啓発 — A区での取り組み —

演者：村崎佳代子(池袋本町訪問看護ステーション)

S3-4 倫理的思考をプラットフォームに、多職種で立ち止まり対話できる地域へ — りんりんの会の取り組みを通して —

演者：井上 京子(調布りんりんの会/調布市医師会訪問看護ステーション)

S3-5 あなたが“いのちの主人公” 人生の最期の生き方を自分で決める事ができます!

演者：山田登喜子(NPO 法人ゆうらいふ ゆうらいふ居宅介護支援事業所)

10:40~12:10 シンポジウム4

患者本位の精神科医療とは — 未来を見据えて倫理的課題を考える —

座長：新田 國夫(日本臨床倫理学会理事長)

S4-1 重篤な身体合併症を持つ精神障碍者の意思決定支援について

演者：青木 勉(国保旭中央病院)

S4-2 「本人の意向」をどう評価すべきか — 精神科の臨床現場から —

演者：寺田 整司(岡山大学)

S4-3 精神医療の非倫理 — 4年前の学会報告、その後 —

演者：大熊由紀子(国際医療福祉大学大学院)

S4-4 その人らしく生きることと自己決定を支援する — 精神看護専門看護師の視点から —

演者：後藤 優子(医療法人社団積信会長谷川病院)

13:30~14:00 総会

14:10~15:40 シンポジウム 5

こどもの意向を尊重する医療

座長：加部 一彦(埼玉医科大学医学部総合医療センター)

加藤美穂子(あいち小児保健医療総合センター)

S5-1 子どもとの協働プロセスの先

演者：笹月 桃子(早稲田大学)

S5-2 こどもの意向を尊重するために看護師にできること

— 私たちは、目の前のこどもの思いを本当に聴くことができているだろうか —

演者：三輪富士代(熊本保健科学大学)

S5-3 疾患とともに生きる子どもの成長に応じた支援の取り組み

演者：川村 昌代(あいち小児保健医療総合センター)

S5-4 子ども心の声を聴くために — チャイルド・ライフ・スペシャリストの視点から —

演者：佐々木美和(名古屋大学)

15:50~17:10 シンポジウム 6

倫理コンサルテーションの質 — よりよい話し合いのために —

座長：清水 幸裕(南砺市民病院)

稲葉 一人(いなば法律事務所/日本臨床倫理学会副理事長)

S6/座長序文

倫理コンサルテーションの質 — よりよい話し合いのために —

演者：清水 幸裕(南砺市民病院)

S6-1 倫理コンサルテーションチームと相談者の課題

演者：澤田 美和(名古屋市立大学)

S6-2 東海大学医学部附属病院における「倫理コンサルテーションの質」向上のための取り組み

演者：竹下 啓(東海大学)

S6-3 東京大学医学部附属病院における臨床倫理コンサルテーションの実践と質向上への取り組み

演者：瀧本 禎之(東京大学大学院)

S6-4 当院における臨床倫理コンサルテーション質向上への取り組み

演者：三浦由佳里(宮崎大学医学部附属病院)

S6-5 北米における倫理コンサルテーションの質の向上の取組み

演者：楠瀬まゆみ(国立研究開発法人理化学研究所)

17:10~17:15 閉会のあいさつ

【第2会場】(第3教育棟3階・301教室)

9:00~10:30 教育講演3

組織で支える介護の倫理

EL3-1 ケアの倫理でつながる医療と介護

演者: 倉井 千恵(セコム医療システム)

EL3-2 セコム訪問看護ステーションにおける倫理の取り組み報告 — 倫理
カンファレンスファシリテーター育成 —

演者: 可知 郁枝(セコム医療システム訪問看護ステーション)

EL3-3

演者: 小峯 一城(アライブメディケア)

指定発言: 塩見 尚礼(日本赤十字社医療事業推進本部)

樋口 幸子(済生会本部)

座長: 稲葉 一人(いなば法律事務所/日本臨床倫理学会副理事長)

箕岡 真子(箕岡医院/日本臨床倫理学会総務担当理事)

10:40~12:10 教育講演4

てんかんと Stigma — 臨床の現場から —

演者: 松本 理器(京都大学大学院)

座長: 高野誠一郎(第12回年次大会長・福井赤十字病院副院長)

12:20~13:20 ランチョンセミナー(第3会場から配信)

地震と水害という重複災害の中で — このままでは終われない —

演者: 中村 悦子(訪問看護ステーションみなぎ)

座長: 新田 國夫(日本臨床倫理学会理事長)

14:10~15:40 教育講演5

病院規模・背景に応じた倫理コンサルテーションシステムの構築

— 都市部の大規模急性期病院 vs 地方の中小コミュニティホスピタル —

演者: 野口 善令(豊田地域医療センター)

座長: 恋水 諄源(京都第二赤十字病院)

【第3会場】(第3教育棟4階・401教室)

9:00~10:30 ワークショップ・倫理コンサルテーションC

本人が拒否する侵襲的医療行為を実施してよいか

東海大学医学部附属病院

竹下 啓, 大貫 優子, 森 朋有, 運崎 愛, 鈴木みづほ

- 10：40～12：10 ワークショップ・倫理コンサルテーション D
 意思表示できない訪日外国人の DNAR 方針をどのように決定するか苦慮した事例
 丁寧な対話の基本を演じる：倫理ファシリテーションアプローチ
 日本臨床倫理学会・上級委員会・倫理ファシリテーション WG
 松村 優子, 山内 典子, 日向 園恵, 三浦由佳里
 明石 恵子, 高 綾子, 三村 千弦, 稲葉 一人
- 12：20～13：20 ランcheonセミナー
 地震と水害という重複災害の中で — このままでは終われない —
 演者：中村 悦子(訪問看護ステーションみなぎ)
 座長：新田 國夫(日本臨床倫理学会理事長)
- 14：10～15：40 ワークショップ・倫理コンサルテーション E
 病名告知後の自殺未遂患者におけるがん治療の是非
 東海臨床倫理研究会
 明石 恵子, 勝浪 優子, 竹内美千代, 澤田 美和, 若山 朋代, 稲葉 一人
- 15：50～17：10 一般演題 11 小児・周産期における医療・ケア
 座長：石井 奈三(東京女子医科大学病院)
 O11-1 小児専門病院における看護職の道徳的感受性と倫理的行動の特徴
 演者：山口 大輔(あいち小児保健医療総合センター)
 O11-2 注意欠如・多動症(ADHD)の子どもを持つ母親の障害告知後の思い
 演者：松石由美子(リアンドファミリー訪問看護ステーション)
 O11-3 生殖医療に関連する先端科学技術に対する医療系学生の理解と社会
 応用に対する態度についての予備的調査
 演者：本間 詩望(北海道大学)
 O11-4 慢性便秘症をもつ学童期の子どもとその母への地域との協働による
 排泄自立支援
 演者：石井 奈三(東京女子医科大学病院)
 O11-5 慢性便秘症を克服後の学童期の子どもが新たな婦人科疾患に向き合
 うための病院・地域との継続的な協働支援
 演者：石井 奈三(東京女子医科大学病院)

【第4会場】(第3教育棟5階・501・502教室)

- 9：00～10：30 一般演題 5 倫理コンサルテーション 2
 座長：藤田 俊夫(長岡赤十字病院)
 O5-1 子どもが主治医であるときの意思決定の難しさ
 演者：瀧川千鶴子(KKR 札幌医療センター)

05-2 社会背景の複雑な症例に対する院内倫理コンサルテーション介入の一例

演者：木村 京香(近江八幡市立総合医療センター)

05-3 高齢認知症患者の意思決定支援の過程でストーマ造設を中止した1例

演者：吉田まつみ(中津市立中津市民病院)

05-4 当院における食事ICフォーム作成の取り組み

演者：相澤 加奈(医療法人溪仁会手稲溪仁会病院)

05-5 ナラティブから考える倫理コンサルテーション

演者：足立 佳澄(水島協同病院)

05-6 身寄りのない患者への支援 ― 回復期病棟での看取り ―

演者：岡本 倫枝(医療法人松徳会花の丘病院)

10:40~12:10 一般演題7 倫理コンサルテーション3

座長：望月 葉子(東京都立北療育医療センター内科・脳神経内科)

07-1 精神科病院における臨床倫理コンサルテーション ― 院内における臨床倫理カンファレンス実践報告 ―

演者：片山 綾(公益財団法人慈主会慈主病院)

07-2 当院における倫理コンサルテーションチームの設置 ― 倫理ラウンドの立ち上げ ―

演者：加藤 寿光(群馬大学医学部附属病院先端医療開発センター)

07-3 日常倫理に基づく認知症ケア定着の過程における看護チームの意識・行動の変容

演者：上野 瑞子(川崎医療福祉大学)

07-4 ICUにおける倫理的感受性の向上および倫理カンファレンスの充実に向けた取り組み

演者：尾之上智世(独立行政法人労働者健康安全機構中国労災病院)

07-5 倫理委員会の設立による組織文化変革に向けた取り組み

演者：三浦 直子(医療法人聖愛会発寒リハビリテーション病院)

07-6 障害者総合医療療育施設での臨床倫理コンサルテーションにおける相談内容

演者：望月 葉子(東京都立北療育医療センター)

14:10~15:40 一般演題9 倫理コンサルテーション4

座長：深谷 基裕(愛知医科大学)

09-1 倫理コンサルテーションの一考察 ― 重度嚥下障害2症例を通して ―

演者：岩佐 茂美(福井赤十字病院)

09-2 当院倫理コンサルテーションチームの活動と課題(第2報)

演者：寺井 堅祐(福井赤十字病院)

- 09-3 中日医師を対象とした医師患者関係モデルと意思決定スタイルに関する質的記述的比較研究
 演者：許 華(東北大学)
- 09-4 専門・認定看護師による意思決定支援教育の効果と課題 — 意思決定支援の教育コンテンツの活用推進に向けて —
 演者：竹内 廣美(川崎市立多摩病院)
- 09-5 高齢者等終身サポート事業者による医療に係る意向表明文書に関する調査 — 中間報告 —
 演者：村上 文子(東京大学大学院)
- 09-6 臨床倫理コンサルテーションで初動する事務職の用いているケース・コンサルテーションスキル
 演者：深谷 基裕(愛知医科大学)

15:50~17:10

一般演題 12 アドバンス・ケア・プランニング

座長：村田さとみ(医療法人社団東山会桜ヶ丘東山クリニック)

- 012-1 調布市における市民への ACP 普及啓発プログラムの作成と実施報告
 演者：中尾 恭子(公益社団法人調布市医師会ちょうふ在宅医療相談室)
- 012-2 自治体のエンディングノートを活用した急性期病院における ACP 導入への取り組み
 演者：中澤 淳子(湘南藤沢徳洲会病院)
- 012-3 当院における ACP 指針の策定
 演者：木村 駿介(医療法人溪仁会手稲溪仁会病院)
- 012-4 認知症専門病院における ACP への取り組み
 演者：升谷 泰裕(福井県立すこやかシルバー病院)
- 012-5 慢性腎臓病の ACP
 演者：茂庭 仁人(医療法人溪仁会手稲溪仁会病院)
- 012-6 透析クリニックにおける ACP 普及活動 第2報
 演者：村田さとみ(医療法人社団東山会桜ヶ丘東山クリニック)

【第5会場】(第3教育棟6階・601・602教室)

9:00~10:30

一般演題 6 慢性期医療における医療・ケア

座長：下畑 享良(岐阜大学大学院)

- 06-1 急性期摂食・嚥下障害患者における time-limited trial (TLT) の有用性と導入の実践
 演者：松本 朋弘(上野原市立病院／練馬光が丘病院／やまと診療所)
- 06-2 認知機能が低下した患者の胃瘻造設における倫理的ジレンマ — 患者を中心とした意思決定支援 —
 演者：柏 潤耶(社会医療法人石川記念会 HITO 病院)

- O6-3 神経難病の意思決定支援に関する文献レビュー
演者：大貫 優子(東海大学)
- O6-4 認知症患者の支援における倫理的問題点に関する検討 — 医療ソーシャルワーカーを対象としたアンケート調査から —
演者：肥田あゆみ(明理会東京大和病院／東京都健康長寿医療センター研究所／第一東京弁護士会)
- O6-5 当院における高次脳機能障害を有する神経膠腫患者の意思決定の現状
演者：渡邊 淳子(福岡大学病院／福岡大学)
- O6-6 アルツハイマー病に対するアミロイド β 抗体薬と ApoE 遺伝子検査に関する臨床倫理的問題
演者：下畑 享良(岐阜大学大学院)

10：40～12：10 一般演題 8 在宅医療介護施設における医療・ケア

座長：永富美知子(日本赤十字社あいち医療センター名古屋第二病院)

- O8-1 過去にペイシエントハラスメントのあった患者の応召義務についてチームで検討した一例
演者：ネルソン咲子(白十字病院)
- O8-2 介護現場で介護職に求められる「真実(病名・病状)告知」に対する倫理的対応 — 本事例に認める倫理的課題について生命(規範)倫理に基づき検討を試みる —
演者：中村 裕子(株式会社日本ヒューマンヘルスケア研究所)
- O8-3 臨床倫理の4分割を活用したケアマネジメント「ACP研修を全職員へ実践しての在宅見取り支援へ」
演者：山田登喜子(特定非営利活動法人(NPO)ゆうらいふ)
- O8-4 高度急性期病院に所属する職員の Advance Care Planning に関する認識と実践状況の実態
演者：上野 沙織(愛知医科大学病院)
- O8-5 患者の意思が確認されないまま看取り対象として地域療養病床に入院した症例の検討
演者：片山 寛次(さくら病院)

14：10～15：40 一般演題 10 倫理委員会

座長：深田 陽子(別府医療センター)

- O10-1 臨床倫理コンサルテーションチームの活動と展望
演者：松山 尚子(医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院)
- O10-2 当院の臨床倫理コンサルテーションチーム活動の分析と課題
演者：中田 裕子(松山赤十字病院)
- O10-3 県庁所在地にある急性期病院で臨床倫理コンサルテーションチーム立ち上げの経過
演者：篠村徹太郎(大津赤十字病院)

O10-4 A 病院における臨床倫理コンサルテーションチームの現状と課題
演者：細越万里子(一般財団法人京都地域医療学際研究所がくさい病院)

O10-5 臨床倫理コンサルティングチームの設置と活動
演者：井上 祥明(別府医療センター)

O10-6 当院における臨床倫理コンサルティングチームの医師の役割
演者：深田 陽子(別府医療センター)

15：50～17：10 一般演題 13 人生の最終段階における医療・ケア

座長：今泉 浩徳(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)

O13-1 倫理コンサルテーションチーム(CECT：Clinical Ethics Consultation Team)における病態悪化時の意思決定を支援する土台づくりについての活動報告

演者：立松 あき(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院)

O13-2 中規模急性期病院における DNAR に関する現状調査

演者：牧野佐知子(国立病院機構豊橋医療センター)

O13-3 POLST による延命処置不希望の事前指示を有する終末期乳がん患者のトルソー症候群の治療に対する意思決定支援

演者：浜谷千枝子(白十字病院)

O13-4 療養型病院のスタッフが日頃の看護実践で感じる倫理的葛藤に関する実践報告

演者：佐藤 浩二(医療法人豊田会刈谷豊田東病院)

O13-5 災害時における意思決定の在り方

演者：宮崎 健(近江八幡市立総合医療センター)

O13-6 当院のPOLST使用実績評価とACPを考慮した運用検討課題について
演者：今泉 浩徳(名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院)